

# 第27回 横浜環境活動賞 受賞者決定

横浜環境活動賞は、地域で様々な環境活動を積極的に行っている方々を表彰する制度です。このたび、学識経験者などで構成する「横浜環境活動賞審査委員会」の審査を経て、第27回の受賞者を決定しました。横浜市は、この制度を通し、市民の皆様に環境の保全・再生・創造に対する関心をより一層高めていただくとともに、地域の環境活動を推進し、環境にやさしいまちづくりに取り組む方々を応援しています。

## 1 受賞者一覧（全19者） ※受賞者の概要は別添資料参照（敬称略・五十音順）

### 市民の部（12団体）

**大賞** NPO法人 海の森・山の森事務局  
**実践賞** 荇子田太陽公園愛護会  
 大岡川夢ロードデッキサポーターズ  
 上屋川グリーンアッププロジェクト  
 グリーンバード横浜南チーム  
 一般社団法人 里海イニシアティブ  
 NPO法人 道志水源林ボランティアの会  
 とつかエココーディネーター協議会  
 なか区民クラブ：バラ教室部会  
 特定非営利活動法人 ぷらっと  
 美里橋サークル  
 みどりと水を守り育てる「地域環境向上委員会」



横浜市環境行動キャラクター  
エコほん

### 企業の部（5社）

**大賞** 株式会社協進印刷  
**実践賞** 株式会社ダイイチ  
 太陽油脂株式会社  
 株式会社タツノ 横浜工場  
 生活協同組合ユーコープ

### 児童・生徒・学生の部（2団体）

**大賞** 横浜市立金沢小学校  
**実践賞** 横浜市立小机小学校 サクラソウプロジェクト

### 生物多様性特別賞（1団体）

横浜市立小机小学校 サクラソウプロジェクト ※児童・生徒・学生の部実践賞と同時受賞

受賞者への取材については、問合せ先にご連絡ください。

## 2 表彰式について

令和2年5月下旬～6月頃に開催予定です。詳細は、改めて記者発表します。

お問合せ先		
環境創造局政策課環境プロモーション担当課長	小野寺 紀子	Tel 045-671-3830

## 第27回横浜環境活動賞 受賞者概要

(敬称略・五十音順)

## 市民の部 (12 団体)

受賞内容	受賞者名	活動地域	活動概要
大賞	NPO 法人 海の森・山の森事務局	横浜市、 茅ヶ崎市、 三浦市	青少年の健全育成、自然環境の保全、芸術振興に寄与することを目的に、幼児・小学校低学年から高齢者まで多くの人たちに対し、独自に撮影した映像を活用し自然環境保護についての普及啓発事業を行う。小学校への環境出前授業、大岡川や茅ヶ崎沖・城ヶ島海底の清掃、写真展開催、広報紙発行などを実施。
実践賞	荏子田太陽公園愛護会	青葉区	ボランティアによる公園の緑化とバラ園の管理運営により、地域福祉の向上を目指す。平成16年から毎年5月に開催しているローズフェスティバルには例年 3,000 人以上が来客。バラを見るおすすめスポットとして園芸誌でも紹介された。令和元年4月に太陽ローズハウスが完成し、活動拠点・講演会場として活用。
実践賞	大岡川夢ロードデッキサポーターズ	中区	安全で使いやすい水辺環境を整え、地域のコミュニティの醸成と魅力向上を目的に、横浜都心部の貴重な親水施設「大岡川夢ロード」の定期清掃会を実施。(一社)水辺荘、北仲通北公園愛護会、Y.S.C.C.との協働、ソーシャルアクションへの参加、SUP、カヤックの体験会、生物観察なども実施。
実践賞	上星川グリーンアッププロジェクト	保土ヶ谷区	花を通じて街・人を明るくすることを目的に、上星川駅周辺、東川島町、西谷町の地域の緑化を推進。当初は、二人の親子で始めた活動だったが、近所を訪問するなどして賛同者を集め、会員数を 58 人にまで増やした。花の手入れなどを通じて、地域にコミュニケーションが生まれている。
実践賞	グリーンバード横浜南チーム	南区、 磯子区	「自分たちの街をきれいで格好良い街」にしていくという目標を共有し、井土ヶ谷地区、蒔田地区、杉田地区、磯子地区などの定期清掃を行っている。持ち物不要として参加へのハードルを低くすることで、地域の人々のつながり・交流を生んでおり、ひきこもりの人たちなどの社会復帰へのきっかけにもなっている。
実践賞	一般社団法人 里海イニシアティブ	金沢区を中心 に横浜市 全域	コンブを食材として捉えるだけでなく、グリーンカーボンの約5倍の CO <sub>2</sub> を吸収する温暖化対策に寄与する海藻として着目し、地元漁協と連携して、海の環境保全に貢献するコンブを栽培、活用している。開発商品には金沢ブランドやヨコハマ・グッズ横濱001として認定されているものもあり、各種イベント等で販売。
実践賞	NPO法人 道志水源林ボランティアの会	横浜市全 域、山梨県 南都留郡道 志村(横浜 市の水源地)	「私たちの飲む水と水源の森は、私たち市民が守り育て、次の世代へと引き継ぐ」ことを基本理念として、道志水源林での間伐活動を行う。一般市民や事業者を対象に、間伐体験会やイベントでの丸太切り体験などを実施し、横浜市の水道と水源地の PR に貢献。小学校への出前教室も行う。

実践賞	とつかエココーディネーター協議会	戸塚区	地球温暖化対策に関する普及啓発を目的に、省エネ等をテーマにしたキャラバンエコ講座や施設見学会を開催。環境に関わる情報を収集し、社会情勢等に合わせた企画を行う。また、戸塚区役所と共催でエコイベントやSDGsに関するパネル展、講演会等を実施し、SDGsの視点を踏まえたエコの取組を推進。
実践賞	なか区民クラブ:バラ教室部会	中区	農薬による人体や生態系への影響を考慮したバラの無農薬・有機並びに無肥料栽培の実証に取り組むと共に、栽培手法の普及に資するため、元町百段公園で、耐病性に強いバラを植栽・栽培を行っている。週一回のバラの維持管理と月一回バラ教室を開催。東京都市大学田中章研究室とも協働した観察活動を実施。
実践賞	特定非営利活動法人 ぷらっと	戸塚区を中心に横浜市全域	里山の自然が残る谷矢部池公園の保全に取り組んでいる。四季を感じ、豊かな自然環境を地域に残して行く大切さを理解してもらうために、自然と親しむ各種イベント等を開催。また、地域交流の活性化を図るとともに、体験を通じた自然教育・環境教育を行い、里山の保全と文化を伝えている。
実践賞	美里橋サークル	都筑区	通勤、通学ルート of 要所に在りながら、雑草が繁茂し不法投棄もあった市道東山田第116号線沿いの緑化に取り組み、環境改善・景観向上を果たした。山田小学校・東山田小学校の児童との花植え実習、準工業地域へのプランター設置など地域交流を深め、バス停周辺の花壇は「つづきみどりと花の名所25選」にも入選した。
実践賞	みどりと水を守り育てる「地域環境向上委員会」	神奈川区	バス停は素敵な花でいっぱいというキャッチフレーズのもと、菅田町内を縦断する3kmのバス通りにある各バス停の周辺に、コンテナや花壇を設置し花木を植栽して環境を向上させている。花で飾られた街なみを見て、通行者の感動を掘り起こし、挨拶のある温かい街づくりと、みどりの大切さの啓発を進めている。

## 企業の部（5社）

受賞内容	受賞者名	所在区	取組概要
大賞	株式会社協進印刷	神奈川区	印刷時に排出される損紙を封筒やメモ帳へ、製版プレートの保護紙を包装紙へ、と再利用。企業等にリユースやリサイクルを提案し、例えばリユース封筒は社外報を送る際に活用されている。また、学校や企業、地域住民向けに環境セミナーや環境保護啓発を行い、環境教育の実施など、CSRを軸に共創を進めている。
実践賞	株式会社ダイイチ	中区	服のリサイクルプロジェクトを実施。不要となり廃棄された衣料品を新しい服や資源にまで循環させる。また、リユース可能なユニフォームとして、裾を切らずにワンタッチで5段階のすそ上げができるチノパン「パチッとパンツ」を開発し販売。その他、地域清掃やバザー（地域住民の方にアウトレット品等を格安販売）等の地域貢献も行う。

実践賞	太陽油脂株式会社	神奈川区	RSPO(認証パーム油)のトレードマークをつけた製品販売や、食品・日用品業界の企業や環境 NGO と協同でシンポジウムを開催するなど、国内における RSPO の普及を促進。また、石けん教室を開催し、毎年 1,000 人前後が参加。身近な石けんを通して SDGs を自分事として捉えるきっかけとし、エシカルな購買をする消費者を育成。
実践賞	株式会社タツノ 横浜工場	栄区	自社ショールームで環境配慮製品や取組等の紹介を行い、CO <sub>2</sub> 削減の重要性や、環境・エネルギーについて考えるきっかけを提供している。また、同社製の水素計量機が国内の水素ステーションの 50%以上に使用されるなど、水素社会実現に向け重要な役割を果たすとともに、国際的展示会等での情報発信にも取り組む。
実践賞	生活協同組合ユーコープ	中区	店舗でのフードドライブの実施や、様々な事情で組合員にお届けできなくなった商品のフードバンクへの寄贈、賞味期限・消費期限当日まで陳列する取組などにより、食品ロス削減に取り組んでいる。また、高校・大学に対しての講義や見学の受入れなど、若い世代への啓発活動にも取り組む。

### 児童・生徒・学生の部（2団体）

受賞内容	受賞者名	所在区	活動概要
大賞	横浜市立金沢小学校	金沢区	5月にマリンフェスタとして1年生から6年生まで海をテーマにした体験活動(海の公園の清掃活動など)を行っている。また、4年生はアマモの種から苗を育て、海へ戻す活動を継続的に行っている。環境保全に取り組む人々の思いを知り、海が豊かになるために自分にできることを児童が主体的に考え、活動している。
実践賞	横浜市立小机小学校 サクラソウプロジェクト <b>生物多様性特別賞 同時受賞</b>	港北区	2009年に新横浜公園と横浜サクラソウ会で始めた環境省レッドリストの準絶滅危惧種サクラソウを新横浜公園に広める活動を、小机小学校が協力から主体へと転換して3年経過した。環境を守る意識をもつとともに、地域を理解し地域に愛される子どもの育成につながるよう、6年生から2・3年生の活動に転換して継続している。